



また当時の街道には、距離の目安となる一里塚が道の両側に築かれた。箱根田街道西坂にも、山中、菅原、鏡田の3ヶ所に一里塚が築かれ、このうちの鏡田一里塚は、大正11年3月8日、国史跡に指定されている。そして平成16年10月18日、あらためて、3ヶ所の一里塚を含む石段区間を中心に、西坂・東坂で計8.0kmの国史跡に追加指定された。



## 三嶋宿～市の山新田



東海道五十三次之内 三島「朝霧」 三島市郷土資料館蔵



東海道五十三次之内 三嶋 新町番から三嶋迄のそのむ 三島市郷土資料館蔵



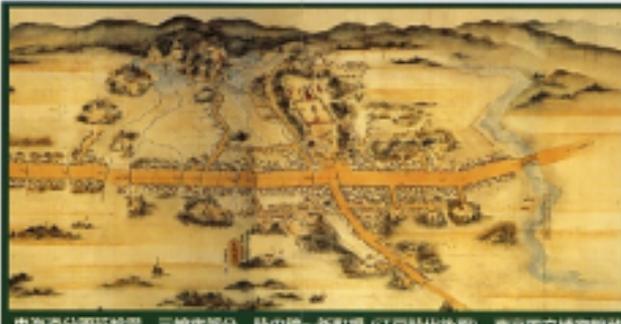
### 穴地蔵

市の山新田の西側にあり、六体の地蔵が前列と後列の二列に並ぶ。三井方面の鎮にも一体あるため、計十三体の地蔵が祀られ、後列右端の一体には、寛政6年（1794）と刻まれている。住民に信仰されているお地蔵様らしく、千作りの帽子をかぶっている。



### 三嶋大社

三嶋大社は伊豆國の一宮として、伊豆に復興となった醍醐朝などの有力武将や伊豆入寇の人々、奥州派の戦人に古くより信仰され、今も多くの参拝者を集める。



東海道分圖延宝版 三嶋也部分 時の鐘～新町番（江戸時代後期）東京国立博物館蔵



### 松並木と鶴田一里塚

慶長9年（1604）、徳川幕府は諸国の街道を整備してその保護に松を植え、約4cm毎に一里塚を築いた。三島市では、鶴田の集り口の約10km区間において、約40本の松並木と鶴田一里塚が残っており、江戸時代の景がしのばれる。平成16年、この松並木区間は、文化11年（1920）に指定されている鶴田一里塚を含め、あらためて国史跡に追加指定された。



### 時の鐘

松小島の三ツ石神社境内にあり、江戸時代には屏風の跡を刻ませていた。石鐘の三嶋部分は、奥層は新町番、西層はこの松小島に引口があり、西層の東西両層は約1.3cmであったが、三嶋番が発見するにつれて東西に拡大した。江戸時代末には、松小島からさらに西方の伊豆・静岡間の国境にある千貫塚まで併城が拡大し、東西両層は約2.3cmとなった。



